ケブカマルクビカミキリを長野県戸台にて採集

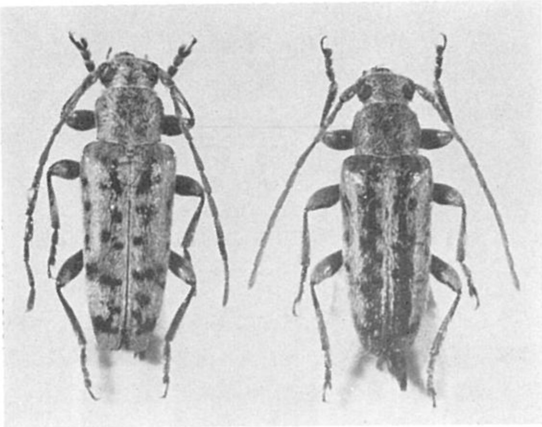
川田　一之

ケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* HAYASHIは1972年，岡山県下における標本を基に記載されたカミキリで，現在まで同県以外の記録を聞かない。

筆者は岡山県よりかなり離れた長野県上伊那郡戸台で本種を採集することができたので，その記録を報告しておく。

1♂，長野県上伊那郡戸台，2. Ⅵ. 1974

岡山県下における本種が平地〜低山で採集されているのに対し，同地戸台は南アルプス仙丈岳の登山口として知られているようにかなりの深山で中山帯に属し，そういった点からも興味深いと思われる。



左：長野県戸台産　右：岡山県産

採集した当時は分布が離れていること，および中山帯で得られたことより，日本産のもう1種の *Atimia*，東京都下奥多摩より記載された *A. fujimurai* とも思ったが，岡山産のものと比較した結果，何ら変わるところがないので本種と同定した。本属の分類における大きなポイントの一つとして，上翅の斑紋の差異があげられているが（本個体は写真の示す通りほぼ同様），岡山のものを見比べていると，斑紋の出方については個体により差が少なくないように思えた。将来，岡山県以外の各地の *Atimia* が多く採集されるようになり，その標本を比較することによって本種と *A. fujimurai* との関係・分布等の問題が解決されていくことを期待したい。

なお，筆者の採集したものはつる性の植物の花（サルナシ？）をすくって得られた。岡山における最初の個体もコバノミツバツツジの花上で得られたものであったことから，本種の訪花性について興味をもち，ビノキュラーで岡山産の個体を調べてみたところ，口器近くに花粉の付着が認められるものを発見した。岡山では，ネズミサシの衰弱木に集まる生態の発見により，多く得られるようになってから，訪花については偶然視されているようであるが，本種が花をすくって得られたことは，あながち，まったくの偶然とは言えないかもしれない。

末文ながら，本文のために比較標本を見せて下さった下村徹・深町宗通両氏，いろいろと御教示頂いた藤田宏氏に御礼申し上げる。

参考文献

1) 青野孝昭・宇野弘之・重井博・脇本浩(1970)：岡山県のカミキリムシ，すずむし Vol. 19, Nos. 1/2

2) HAYASHI, M. (1972)：日本およびその近隣の天牛類の研究，XIX，昆虫学評論 Vol. 24, Nos. 1/2

3) 中根猛彦 (1974)：日本の甲虫(8)，昆虫と自然 Vol. 9, No. 6

4) 黒田祐一(1974)：ケブカマルクビカミキリ，昆虫と自然 Vol. 9, No. 8

(〒164　中野区東中野5—20—13)

編　集　後　記

○例によって，だいぶ遅れてしまいました。しかし，今号は“反カミキリ”体制となり，雑甲虫愛好家には喜んでいただけたと思います。

そうかと言って，カミキリをしいたげているのではありません。ついに第2会誌登場！——近々発行されるこの第2会誌には，カミキリの記事で埋めつくされています。それにしても雑甲虫の投稿が少ないですネェー。

ELYTRA次号は益本仁雄氏による台湾産糞虫類のリストがトップ記事です。ご期待を。

（高桑正敏　記）

ELYTRA　Vol. 2, No. 2

昭和50年2月20日　印刷
昭和50年2月25日　発行

編集者　露　木　繁　雄
　　　　高　桑　正　敏
発行者　草　間　慶　一
　　　　藤　田　　　宏
発行所　日本鞘翅目学会
Japanese Society of Coleopterology
東京都台東区東上野4-26-8
福田惣一方（〒110）
c/o, FUKUDA, 4-26-8, Higashi-Ueno, Taitō-ku, Tōkyō-city, Japan
印　刷　㈱大和印刷